

－3 年次科目・シラバス－

○共通履修科目

【国語】

講座名	現代文B	科目名	現代文B	単位数	2
科目の種類	共通履修	授業形態	クラス単位の一斉授業	予定時数	58
履修対象者	3年次生全員				
目標	近現代の小説・評論・韻文等を通し、想像力、思考力、表現力を高める。				
科目の内容	1 学期	4 月 随想を読み、読解方法の基礎演習を行う。 5 月 小説を読む。漢字、語句の意味・用法について学習する。 6～7 月 評論を読む。近代文学史について学習をする。			
	2 学期	9～10 月 小説を読む。漢字、語句の意味・用法について学習する。 読解方法の演習を行う。 11～12 月 評論を読む。近代文学史について学習をする。読解演習を行う。			
	3 学期	1 月 小説・評論について読解演習を行う。			
評価方法	定期考査、小テスト、提出物などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

【公民】

講座名	現代社会	科目名	現代社会	単位数	2
科目の種類	必履修	授業形態	クラス単位の一斉授業	予定時数	58
履修対象者	3年次生全員				
目標	広い視野を持ち、社会の出来事に関心を持ち、政治・経済の基礎的内容を理解する。				
科目の内容	1 学期	政治や経済の基礎的内容に加え、現代社会の諸課題を考える内容構成 現代の政治 4 月 民主政治の基本原理 5 月 日本国憲法 6 月 日本の政治機構 7 月 青年期の課題			
	2 学期	現代の経済 9 月 経済社会の変容 10 月 経済のしくみ 11 月 国際政治・国際経済 12 月 現代社会の課題と青年			
	3 学期	1 月 上記についての問題演習・解説			
評価方法	定期考査、提出物、授業態度などを総合的に評価する				
使用教科書	実教出版「高校現代社会 新訂版」				
使用教材	第一学習社「本質が見えてくる 最新現代社会資料集 新版」				
諸経費					
備考	学習指導要領上の必履修科目				

【保健体育】

講座名	体育3	科目名	体育	単位数	3
科目の種類	必履修	授業形態	2クラス合同で行う。	予定時数	87
履修対象者	3年次生全員				
目標	自らの課題を発見し、解決に向けた学習過程を通して、体力の向上を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を身につける。 グループで授業を計画し、進めることで、主体性や協調性、責任感を身につける。				
科目の内容	1学期	4～5月 アルティメット、バスケットボール、 6～7月 ハンドボール、フットサル			
	2学期	9～10月 バドミントン、卓球 11～12月 ソフトボール、テニス			
	3学期	1月 サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、卓球、テニス			
評価方法	出席、授業計画、個人カード、技能、活動状況（個人・グループ）を総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	年度によって種目の変更を行う場合がある。				

【総合的な探究の時間】

講座名	総合的な探究の時間	科目名	総合的な探究の時間	単位数	2
科目の種類	必修	授業形態	個別活動および年次活動	予定時数	70
履修対象者	3年次生全員				
目標	① 自己の課題発見とその解決に必要な知識・技能を修得 ② 自己と社会との関係からの課題発見 解決に向けた情報収集・整理分析・発表力育成 ③ 卒業後の進路に向けた進路情報の収集と行動力育成 ④ 卒業後の人生に関する課題発見 課題の解決能力の育成 ⑤ 主体的・協働的に取り組む姿勢の涵養 新たな価値創造とよりよい社会を実現しようとする態度の涵養				
科目の内容	1学期	4月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析 5月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析 6月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析 7月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動の中間発表、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析			
	2学期	9月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析 10月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動一次提出、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析 11月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動提出、発表、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析 12月 各自が設定したテーマに関する調査・研究、制作活動代表発表、およびキャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析			
	3学期	1月 キャリアプランニング能力育成のための情報収集・分析			
評価方法	出席状況、毎時間の取り組み状況、研究レポートの提出・発表等を総合的に判断し、文章による評価を行う				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	通年の履修				

○選択科目

【国語】

講座名	小論文演習	科目名	国語表現	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 (個別指導をする場合もある)	予定時数	58
履修対象者	様々なテーマについて論述する高度な文章力を養成したい者。 (推薦等の志望理由書対策講座ではないので注意すること。)				
目標	様々なテーマ、形式による小論文課題に取り組み、論理的思考力・表現力を養う。				
科目の内容	1 学期	4 月 論文作成の手順を学ぶ。 5～7 月 小論文の書き方・タイプ別対処法の学習をする。			
	2 学期	9 月 小論文の実践練習をする。 10 月 過去の入試問題等を利用して、様々なタイプの小論文を書く練習をする 11～12 月 希望進路別に個別指導を行う。			
	3 学期	1 月 小論文の実践練習			
評価方法	授業態度、課題提出状況、小テストなどを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	毎時間の課題を重視する科目なので、遅刻・欠席をしないこと、課題の提出を怠らないことが重要である。				

講座名	古典演習	科目名	古典B	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	文系大学への進学希望者 古典の学習に関心の高い者				
目標	幅広い作品・入試問題に接し、古典に親しむ態度と確かな読解力、入試問題対応力を養う。				
科目の内容	1 学期	4 月 古典文法を確実に理解する。文学史を確実に理解する。 5 月 漢文の句法を確実に理解する。 6～7 月 歴史上の重要な作品を読み味わう。様々なジャンルの読解方法の基礎演習を行う。			
	2 学期	9～10 月 読解演習を行う。文学史の知識を定着させる。 11～12 月 過去の入試問題を中心に、様々なジャンルの文章について読解演習を行う。			
	3 学期	1 月 過去の入試問題を中心に、様々なジャンルの文章について読解演習を行う。			
評価方法	定期考査、授業態度、提出物、小テスト等などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	2 年次に「古典 B」を履修していない者は相談に来ること。				

講座名	古典講読	科目名	古典講読	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 適宜ゼミナール形式を取り入れる	予定時数	58
履修対象者	『源氏物語』に関心があり、作品を通じて古典世界に触れることを希望する者 国文学・日本文学科への進学希望者で、「古典演習」のほかに古典の学習を希望する者				
目標	『源氏物語』を深く多角的に読解し、古人のものの見方・感じ方に触れ古典の価値を知る。				
科目の内容	1 学期	<p>4 月 『源氏物語』(主として第一部)を原文のまま、全体のストーリーを追いながら鑑賞する。作品の歴史的背景・平安貴族社会とその文化への理解を深める。</p> <p>5 月 作中に描かれる人々の哀歓、人情の機微などをとらえ、時代が移っても変わらぬ「ひとのすがた」に対して理解・考察を深める。</p> <p>6 月 主として解釈を中心にいき、長大なストーリーの流れ・多様な登場人物と複雑な人間関係をつかみながら、個々の場面ごとの描写の巧みさ、観察眼の鋭さなどを理解していく。</p> <p>7 月 映像化された作品などを適宜織り交ぜ、『源氏』全体と第一部を把握する。</p>			
	2 学期	<p>9 月 第一部から大きく雰囲気が変わる第二部を、物語とそれに伴う登場人物の心理の動きに特に注意を払い、「もののあはれ」と称される所以について考察を深める。</p> <p>10 月 ゼミナール形式を取り入れ、受講者が担当する箇所について調べ、発表し、それを受けて話し合う。</p> <p>11～12 月 『源氏物語』に関するテーマを定め、レポートを作成・発表する準備をする。</p>			
	3 学期	1 月 レポートを作成・発表			
評価方法	定期考査、課題の提出状況、発表、レポートなどの授業中の活動を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
備考	教養講座。現代語訳版、あるいはコミック版(『あさきゆめみし』(大和和紀、講談社)など)を読み、『源氏物語』の世界に触れ、ストーリーの概要、主な登場人物を把握しておくことが望ましい。				

【地理歴史・公民】

講座名	世界史A	科目名	世界史A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	地理歴史科の履修条件を満たす必要のある生徒				
目標	近現代の世界の歴史についておおまかな流れを理解する。				
科目の内容	1学期	4月～ 5月 近世ヨーロッパの動向 欧米の諸革命 6月～ 7月 ヨーロッパ勢力の拡大 アジアの動向			
	2学期	9月～10月 帝国主義と第1次世界大戦 11月～12月 戦間期と第2次世界大戦			
	3学期	1月 第2次世界大戦後の世界			
評価方法	定期考査、授業への取り組みなどを総合的に評価する				
使用教科書	実教出版「新版世界史A 新訂版」				
使用教材	帝国書院「最新世界史図説 タペストリー 二十一訂版」				
諸経費					
備考	大学入試問題を取り入れる。 世界史A、世界史Bを履修済み、またはこれから履修する生徒のみが受講できる。				

講座名	世界史B演習	科目名	世界史B	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	116
履修対象者	世界史を受験科目とする者 毎時間、小テストや宿題等をきちんとこなせる者				
目標	近現代の世界の歴史を学び、大学入試に対応できる力をつける。				
科目の内容	1学期	4月 アジア近世史 欧米近世史 5月 アジア諸地域の動揺と帝国主義 民族運動 6月 二つの世界大戦 冷戦と第三世界 7月 現代史			
	2学期	9月 まとめ 10月 実践問題演習（原始・古代分野、テーマ史など） 11月 実践問題演習（中世・近世分野、テーマ史など） 12月 実践問題演習（近現代分野、テーマ史など）			
	3学期	1月 実践問題演習（総合問題）			
評価方法	定期考査、授業への取り組みなどを総合的に評価する				
使用教科書	山川出版社「詳説世界史 改訂版」				
使用教材	帝国書院「最新世界史図説 タペストリー 二十一訂版」 啓隆社「世界史 重要語句 Check List」				
諸経費					
備考					

講座名	日本史A	科目名	日本史A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	地理歴史科の履修条件を満たす必要のある生徒				
目標	近現代の日本の歴史についておおまかな流れを理解する。				
科目の内容	1 学期	4 月 開国と幕末の動乱 5 月～ 6 月 明治維新と近代国家の形成 7 月 国際関係の推移と近代産業の成立			
	2 学期	9 月～ 1 0 月 第一次世界大戦と日本 1 1 月 第二次世界大戦と日本 1 2 月 戦後の政治と社会 経済国家としての発展			
	3 学期	1 月 現代の日本と世界			
評価方法	定期考査、提出物、授業への取り組みなどを総合的に評価する				
使用教科書	第一学習社「高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来」				
使用教材	第一学習社「最新日本史図表 五訂版」				
諸経費					
備考					

講座名	日本史B演習	科目名	日本史B	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業、 問題演習	予定時数	116
履修対象者	日本史を受験科目とする者				
目標	近現代の日本の歴史を学び、大学入試に対応できる力をつける。				
科目の内容	1 学期	大学受験レベルに対応できる政治・社会・経済史など一般通史を学ぶ。 4 月 幕藩体制の成立と幕政の安定 5 月 幕政の改革 6 月 開国と幕末の動乱、明治維新と富国強兵 7 月 立憲国家の成立			
	2 学期	大学受験レベルに対応できる政治・社会・経済史など一般通史を学ぶ。 9 月 日清戦争・日露戦争と国際関係 近代産業の発展 10 月 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 11 月 恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦 12 月 占領下の日本			
	3 学期	1 月 高度経済成長の時代			
評価方法	定期考査、授業への取り組み、課題の提出状況などを総合的に評価する				
使用教科書	山川出版社「詳説日本史 改訂版」				
使用教材	第一学習社「最新日本史図表 五訂版」 山川出版社「山川 一問一答日本史 第3版」				
諸経費					
備考	随時、大学入試問題の演習を取り入れる。 2年次に日本史Bを履修していない者は相談に来ること。				

講座名	*世界文化史	科目名	世界文化史	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	世界史を受験科目とし、文化史をまとめて学習したい者 世界史に関心がある者				
目標	古代から現代までの世界の文化の流れや特徴を理解する。				
科目の内容	1学期	<p>普段、単独で取り上げられることのない、世界史における文化史に重点をおいた講義。文化史上の用語の羅列ではなく、その文化発展の時代背景にも触れていく。(各学期同様)</p> <p>4月～5月 オリエント・ギリシア・ヘレニズム・ローマ、キリスト教史</p> <p>6月～7月 東ローマ帝国</p>			
	2学期	<p>9月 中世都市、教皇権の盛衰・十字軍、東西交渉史、中国王朝交代史(古代～元) イスラム史</p> <p>10月～11月 ルネサンスと宗教改革、17世紀～18世紀の欧米文化</p> <p>12月 19世紀～20世紀初頭の欧米文化、</p>			
	3学期	1月 世界大戦前後期の世界、中国王朝交代史(明～中華民国)、仏教史等			
評価方法	定期考査、小テストの結果および宿題の提出状況を総合的に評価する				
使用教科書	山川出版社「詳説世界史 改訂版」				
使用教材	帝国書院「最新世界史図説 タペストリー 二十一訂版」				
諸経費					
備考	2年次に世界史 B を履修していない者は相談に来ること。				

講座名	*日本文化史	科目名	日本文化史	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	日本史を受験科目とし、文化史をまとめて学習したい者 日本史に関心がある者				
目標	古代から現代までの日本の文化の流れや特徴を理解する				
科目の内容	1学期	<p>日本史における古代・中世の文化に関して、一般教養的な内容を中心に学び、大学入試にも対応できるようにする。(各学期同様)</p> <p>4月 飛鳥文化 白鳳文化 天平文化</p> <p>5月 唐風文化と平安仏教 国風文化</p> <p>6～7月 鎌倉文化 室町文化</p>			
	2学期	<p>9月 桃山文化 寛永期の文化</p> <p>10月 元禄文化 宝暦・天明期文化 化政文化</p> <p>11月 近代文化の発達 市民生活の変容と大衆文化</p> <p>12月 大正～昭和初期、戦時下の文化</p>			
	3学期	1月 占領期の文化 大衆消費社会の誕生			
評価方法	定期考査、授業への取り組み、課題の提出状況などを総合的に評価する				
使用教科書	山川出版社「詳説日本史 改訂版」				
使用教材	第一学習社「最新日本史図表 五訂版」				
諸経費					
備考	2年次に日本史 B を履修していない者は相談に来ること。				

講座名	政治・経済	科目名	政治・経済	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	政治・経済を受験科目とする者				
目標	政治・経済について自ら考え、また、積極的、計画的に学習に取り組む。				
科目の内容	1 学期	4 月 資本主義経済の成立と発展 5 月 現代経済のしくみ 6 月 日本経済の発展 7 月 日本経済の課題			
	2 学期	9 月 民主政治の基本原理 10 月 日本国憲法の基本原理 11 月 日本の政治機構 12 月 現代政治の特質と課題			
	3 学期	1 月 大学入試共通テスト・私大対策として政治経済に関する演習問題と解説			
評価方法	定期考査、課題提出、授業態度などを総合的に評価する				
使用教科書	東京書籍「政治・経済」				
使用教材	第一学習社「本質が見えてくる 最新現代社資料集 新版」 東京書籍「3ステップス 政治・経済研究ノート」				
諸経費					
備考	本講座は原則、法・経済などの分野へ大学進学を希望する者を対象とする。 大学受験科目として「政治・経済」を選択する予定の者が履修すること。				

【数学】

講座名	数学Ⅲ	科目名	数学Ⅲ	単位数	6
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	174
履修対象者	2 年次に数学Ⅱ・数学 B を修得し、4 年制大学理・工・医療系進学を希望している者				
目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得や事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす				
科目の内容	1 学期	4 月 複素数平面（複素数、複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理） 5 月 式と曲線、関数（放物線・楕円・双曲線、2 次曲線と直線、媒介変数表示） 6 月 関数、極限、微分法（分数関数、無理関数、逆関数、合成関数、数列の極限） 7 月 入試問題演習			
	2 学期	9 月 微分法の応用（微分係数、導関数、微分法、高次導関数） 10 月 積分法（不定積分、置換積分法、部分積分法、定積分、区分求積法） 11 月 積分法の応用・入試問題演習 12 月 入試問題演習			
	3 学期	1 月 入試問題演習			
評価方法	授業での活動、提出物、定期考査を総合的に評価する				
使用教科書	数研出版「高等学校数学Ⅲ」				
使用教材	数研出版「クリアー数学Ⅲ」				
諸経費	教科書・問題集購入費のみ				
備考					

講座名	数学Ⅰ・A 演習Y	科目名	数学ⅠA 演習	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	数学Ⅰ・Aを受験科目とする者 看護系へ進学・公務員試験受験予定で、数学Ⅰ・Aの問題演習が必要な者				
目標	数学Ⅰ・数学Aの理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす				
科目の内容	1学期	4月 式の計算 5月 方程式・不等式の解法、2次関数 6月 2次関数の最大・最小、2次不等式 7月 2次関数の種々の問題、三角比の基本			
	2学期	9月 三角比と図形 10月 集合、場合の数・順列 11月 組合せ、二項定理 12月 確率、確率と期待値			
	3学期	1月 命題と論証			
評価方法	授業での活動、提出物、定期考査を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材	数研出版「改訂版リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B」				
諸経費	問題集購入費のみ				
備考	2年次に「数学ⅠA 演習X」を履修した者は「数学ⅠA 演習Z」を履修すること。				

講座名	数学Ⅰ・A 演習Z	科目名	数学ⅠA 演習	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	数学Ⅰ・Aを受験科目とする者 看護系へ進学・公務員試験受験予定で、数学Ⅰ・Aの問題演習が必要な者				
目標	数学Ⅰ・数学Aの理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす				
科目の内容	1学期	4月 式の計算 5月 方程式・不等式の解法、2次関数 6月 2次関数の最大・最小、2次不等式 7月 2次関数の種々の問題、三角比の基本			
	2学期	9月 三角比と図形 10月 集合、場合の数・順列 11月 組合せ、二項定理 12月 確率、確率と期待値			
	3学期	1月 命題と論証			
評価方法	授業での活動、提出物、定期考査をもとに総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材	数研出版「ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」				
諸経費	問題集購入費のみ				
備考	「数学Ⅰ・A 演習X（基礎編）」の 発展編 である				

講座名	数学Ⅱ・B 演習	科目名	数学ⅡB 演習	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	2年次に数学Ⅱ・数学Bを履修した者のうち、数学Ⅱ・Bを受験科目とし、数学Ⅱ・数学Bの問題演習が必要な者				
目標	数学Ⅱ・数学Bの理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす				
科目の内容	1 学期	4 月 式と証明、複素数と方程式 5 月 図形と方程式 6 月 三角関数、指数関数、対数関数 7 月 微分積分			
	2 学期	9 月 ベクトル 10 月 数列、漸化式 11 月 総合演習 12 月 総合演習			
	3 学期	1 月 数学Ⅱ・B 総合演習			
評価方法	授業での活動、提出物、定期考査をもとに総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材	数研出版「ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」				
諸経費	問題集購入費のみ				
備考					

【理科】

講座名	物理	科目名	物理	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	講義、実験、演習	予定時数	116
履修対象者	理学、工学系大学への進学希望者				
目標	物理基礎で学習した力学、熱力学、波動、電気を基礎とし、より複雑な自然現象から科学の原理・法則を導いていくことで自然界を理解していく。				
科目の内容	1 学期	4 月 平面運動、運動量の保存 5 月 円運動、慣性力 6～7 月 単振動、万有引力、気体分子の運動			
	2 学期	9 月 電場と電位 10 月 電流、電流と磁場 11 月 電磁誘導と電磁波、電子と光 12 月 原子と原子核			
	3 学期	1 月 総合問題演習			
評価方法	定期考査、出席状況、提出物点、授業態度を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	化学	科目名	化学	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	講義・実験・実習・演習	予定時数	116
履修対象者	理学、工学、農学、薬学、栄養学、看護、医療系大学への進学希望者				
目標	化学基礎で学んだ内容を総合的に活用し、大学入試を想定した知識を身につける。				
科目の内容	1 学期	4 月 物質の状態と平衡 5 月 物質の変化と平衡 6 月 無機物質 7 月 有機化合物			
	2 学期	9 月 有機化合物 10 月 高分子化合物 11 月 高分子化合物・総合演習 12 月 大学入試対策			
	3 学期	1 月 総合演習 化学基礎の問題演習も行う。			
評価方法	定期考査、出席状況、実験レポート、提出物、授業への取組みなどを総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	生物	科目名	生物	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	講義、実験、演習	予定時数	116
履修対象者	理学、工学、農学、看護、医療系大学への進学希望者				
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物基礎で身に着けた基礎的な知識や考え方を土台に、より発展的な現象について理解する。 ・生物的な現象について論理的に考えられるようになる。 				
科目の内容	1 学期	実験観察や演習問題を随時行う。(各学期同様) 4 月 細胞と分子、代謝 5 月 遺伝情報の発現、有性生殖 6～7 月 動物の発生、植物の発生			
	2 学期	9 月 植物の環境応答、動物の反応と行動 10 月 個体群と生物群集、生態系 11 月 生物の進化 12 月 生物の系統			
	3 学期	1 月 総合演習			
評価方法	定期考査、提出物などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	物理基礎演習	科目名	物理基礎	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	演習・講義	予定時数	58
履修対象者	理学、工学系大学への進学希望者				
目標	物理の基本となる概念や原理、法則を理解し活用する能力を身につける。				
科目の内容	1 学期	4～7月 運動とエネルギー、波、電磁気の各分野において、適当な物理的事物・現象を取り上げ、基本的な概念・原理・法則を復習するとともに、学習内容に対する理解をさらに深める。			
	2 学期	9～12月 過去のセンター試験、私立大学入試問題を中心に問題演習を行い、入試対策を行う。			
	3 学期	1月 物理学の成果が現代の豊かな生活を支えていることおよび物理学が基礎的で身近な学問であることを再認識し、科学に対する興味を持つ。			
評価方法	定期考査、出席状況、提出物、授業態度を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	化学基礎演習	科目名	化学基礎	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	演習・講義	予定時数	58
履修対象者	理学、農学、薬学、栄養学、看護、医療系大学への進学希望者				
目標	化学基礎の大学入試問題を演習し、理解を深める。				
科目の内容	1 学期	4月 物質の成分と構成元素 5月 物質を構成する粒子と化学結合、物質量と濃度 6月 化学変化とエネルギー、酸と塩基 7月 酸化還元反応と電池、電気分解			
	2 学期	9月 非金属元素の単体と化合物 10月 金属元素の単体と化合物、有機化合物の特徴と脂肪族化合物 11月 芳香族化合物 12月 大学入試共通テスト対策			
	3 学期	1月 大学入試共通テスト対策			
評価方法	小テスト、定期考査などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	生物基礎演習	科目名	生物基礎	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	演習	予定時数	58
履修対象者	理学、工学、農学、看護、医療系大学への進学希望者				
目標	生物基礎の試験で、各々が進路決定上必要とする得点が取れるようにする。				
科目の内容	1 学期	年間を通じ風習と問題演習を中心に行う。 4 月 代謝と ATP 等（復習と問題演習） 遺伝情報とタンパク質の合成等（復習と問題演習） 4～5 月 遺伝子の本体等（復習と問題演習） 6 月 生体防御等（復習と問題演習） 6～7 月 生態系等（復習と問題演習）			
	2 学期	9～12 月 問題演習			
	3 学期	1 月 問題演習			
評価方法	定期テスト、小テスト、提出物などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

【体育】

講座名	*スポーツ専攻上級	科目名	スポーツ専攻上級	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	実技および講義	予定時数	58
履修対象者	3 年次。体育系進学者以外も履修可。				
目標	種目を選択し、より高度な技能を習得する。 練習計画を立て、ルールを理解して審判ができるようにする。 基礎技術の指導を通じて、責任感やリーダーシップを身につける。				
科目の内容	1 学期	4～7 月 ・種目を選択し年間を通じ実技、理論を学習する。			
	2 学期	9～12 月 ・種目を選択し年間を通じ実技、理論を学習する。			
	3 学期	1 月 ・種目を選択し年間を通じ実技、理論を学習する。			
評価方法	出席、授業計画、活動状況等を総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	年度によって種目を変更する場合があります。				

講座名	スポーツ概論Ⅱ	科目名	スポーツ概論	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	実技および講義	予定時数	58
履修対象者	2年次にスポーツ概論Ⅰを履修している者 体育系進学者が望ましい				
目標	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決方法を考えるとともに、豊かなスポーツライフの設計ができるようにする。 体育系の進路先について学び、進路選択に生かす。				
科目の内容	1学期	4～7月 ・スポーツ概論Ⅰにて学んだ内容の発展。 ・スポーツの科学的知識を学び、現代スポーツに関わる様々な問題解決に取り組むことで、スポーツリテラシーを身につける。			
	2学期	9～12月 ・スポーツ概論Ⅰにて学んだ内容の発展。 ・スポーツの科学的知識を学び、現代スポーツに関わる様々な問題解決に取り組むことで、スポーツリテラシーを身につける。			
	3学期	1月 ・スポーツ概論Ⅰにて学んだ内容の発展。 ・スポーツの科学的知識を学び、現代スポーツに関わる様々な問題解決に取り組むことで、スポーツリテラシーを身につける。			
評価方法	出席状況、活動状況、定期考査の結果などを総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	生涯スポーツ・レクリエーション	科目名	生涯スポーツ・レクリエーション	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	実技および講義	予定時数	58
履修対象者	3年次 生涯スポーツについて学び、実践する意欲のある者。				
目標	自らスポーツについて学び、練習や試合を企画する中で、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を身につける。				
科目の内容	1学期	4～7月 ・インディアカ・ペタンク・フライングディスク等のニュースポーツを中心に競技や審判ができるようにする。			
	2学期	9～12月 ・上記のニュースポーツを選択し学習する。 ・上記以外のニュースポーツにも取り組む。			
	3学期	1月 ・自他の安全を考慮し、年齢や性差の区別なく実践できる能力を身につける。			
評価方法	出席、授業計画、活動状況等を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	野外活動 Y	科目名	スポーツ V	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	実技および講義	予定時数	58
履修対象者	3年次 自然の中における種々の集団的活動を身につけたい者				
目標	野外での体験活動を通じて、豊かな人間性と、自ら学び、自ら考える力を身につける。				
科目の内容	1学期	4～7月 ・野外活動の基礎的な知識・技術の習得。 ・集団でのコミュニケーション能力の習得。			
	2学期	9～12月 ・野外活動で使用する、道具の整理および用品を自ら作成し使用する。 ・創作活動や飯盒炊爨などを行う。 ・環境との調和を理解するとともに、エコについて考え実践していく。			
	3学期	1～3月 ・コミュニケーションゲームを実践し、リーダーシップをとれるように学習する。 ・自他の安全を考慮し、年齢や性差の区別なく活動できる能力を身につける。			
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	年間 4,000 円				
備考	・野外活動で必要とされる、衣類、専用のシューズを用意すること。				

講座名	野外活動 Z	科目名	スポーツ V	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	実技および講義	予定時数	58
履修対象者	3年次 野外活動 X を履修した生徒 X の活動をもとに計画をたて実践を行っていく。				
目標	野外での体験活動を通じて、豊かな人間性と、自ら学び、自ら考える力を身につける。 授業を計画・準備し、進める中で、主体性や協調性を身につける。				
科目の内容	1学期	4～7月 ・野外活動 X で学習した内容の振り返り。 ・集団のリーダーシップを発揮するための能力・態度の習得。			
	2学期	9～12月 ・野外活動で使用する、道具の整理および用品を自ら作成し使用する。 ・創作活動や飯盒炊爨などを行う。 ・環境との調和を理解するとともに、エコについて考え実践していく。			
	3学期	1月 ・自他の安全を考慮し、年齢や性差の区別なく実践できる能力を身につける。			
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	年間 4,000 円				
備考	・野外活動で必要とされる、衣類、専用のシューズを用意すること。				

【芸術】

講座名	*現代の音楽B	科目名	現代の音楽 B	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業及びグループ活動	予定時数	58
履修対象者	音楽系、保育系の進路を考えている者。また、音楽を真剣に愛好する者。				
目標	ともに演奏する人と表情や表現方法を工夫できるようになる。				
科目の内容	1 学期	4～5月 楽曲 音の長さ、リズムと拍子、音程 6～7月 発声法 平易な2部、3部合唱を使用して 4～5月 リズム打ち、リズム聴音			
	2 学期	9～10月 合唱 ハーモニーを重視して 10～11月 楽器演奏 鍵盤楽器、ギターなど（独奏およびアンサンブル） 11～12月 楽典 音階、調性			
	3 学期	1月 発表（1年間のまとめ）			
評価方法	活動ごとの実技テスト、及び鑑賞などのレポート提出。また出席状況、授業態度を加味し総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	楽譜代（約1,000円程度）※都合によって変更する場合があります。				
備考	グループ学習があるため履修生徒は20名程度にとどめる。				

講座名	*鍵盤楽器演習Z	科目名	鍵盤楽器演習 Z	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	個別学習（1講座12名まで）	予定時数	58
履修対象者	音楽系及び保育系・福祉系に進路を希望している者。また鍵盤楽器による演奏に興味を持っている者。希望者が予定人数を超過した場合は抽選を行う。その際、2年時に「鍵盤楽器演習X」を履修していた者を優先します。				
目標	ピアノの技術や表現を高める。				
科目の内容	1 学期	4月 各自の段階を把握し、ピアノ実技課題を設定する。 4～6月 ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。銀翼祭発表にむけての練習。 必要に応じて読譜のための楽典の学習も行う。 7月 1学期末実技発表会			
	2 学期	9月 新たな課題を設定する。銀翼祭出演（演奏）。 9～11月 ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。 伴奏づけのためのコードの学習や、コード進行についても学ぶ。 12月 2学期末実技発表会			
	3 学期	1月 ピアノ演奏の応用			
評価方法	実技発表での演奏を評価する。また、普段の授業態度も加味する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	楽譜代として、1,000円～2,000円				
備考	音楽室の環境（楽器数及び電源数）に制限があるため、履修生徒数は12人以下とする。				

講座名	声楽	科目名	声楽	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業及びグループ学習	予定時数	58
履修対象者	音楽系及び保育系の進路を考えている者。合唱を愛好する者。				
目標	演奏形態（編成）の違いを理解し、ふさわしい表現を工夫できるようになる。				
科目の内容	1 学期	全期を通して、合唱による重唱に取り組む 4 月 発声の基本、 5～7 月 混声三部の合唱曲			
	2 学期	9 月 混声三部・混声四部の合唱曲（ア・カペラ曲も含む） 10～12 月 グループによる重唱			
	3 学期	1 月 グループによる重唱発表			
評価方法	実技テスト 練習記録表				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	グループ活動があるため履修生徒数は 30 名以内にとどめる。				

講座名	美術史	科目名	美術史	単位数	2
科目の種類	総合選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	美術系進路希望者、および美術を深く理解したい者				
目標	美術史の学習を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質、能力を養う。				
科目の内	1 学期	4 月～7 月 西洋の美術と文化			
	2 学期	9 月～12 月 日本の美術と文化 12 月～ 現代の美術と文化			
	3 学期	1 月 デザイン史			
評価方法	試験、レポート、出席状況等により総合的に評価				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	2,000 円程度				
備考	美術史の流れを、時代ごとの絵画等の図版を見て理解する。調べ学習や体験的な実技も行います。美術館等で鑑賞活動を実施する場合、交通費が自己負担になります。				

講座名	素描B	科目名	素描	単位数	4
科目の種類	総合選択	授業形態	選択者による一斉授業	予定時数	116
履修対象者	原則として2年次に素描Aを履修した者。美術系進路希望者。				
目標	対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。				
科目の内容	1学期	主に鉛筆、木炭を用いて素描(デッサン)作品を制作する。観察力、技術力、表現力をより高める。 4～5月 想定デッサン(手とモチーフ) 5～6月 静物デッサン(中型モチーフ) 6～7月 人物デッサン(モデル)			
	2学期	9月 石膏デッサン(胸像) 10月 想定デッサン 11月 静物デッサン(大型モチーフ) 12～1月 構成想定デッサン(モチーフを組み合わせ)			
	3学期	1月 構成想定デッサン(モチーフの組み合わせ)			
評価方法	完成作品の他、制作過程、出席状況などを総合して評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	8,000円程度(道具を既に持っている者は1,500円程度の消耗品のみの経費)				
備考	素描Aを履修していない者で、本講座を希望する者は必ず履修登録前に相談すること。課題は変更することがあります。				

講座名	絵画B	科目名	絵画	単位数	6
科目の種類	総合選択	授業形態	選択者による一斉授業	予定時数	174
履修対象者	原則として2年次に絵画Aを履修したもの。 美術系進路希望者。絵画表現の技術を深く身に付けたい者。				
目標	絵画の多様な技法を習得し、自ら素材や道具を選択し、制作することができる能力を高める。				
科目の内容	1学期	4～7月 油絵作品制作を通して、絵画技法の多様性と材料に対する理解を深め、自らのものの見方で表現する力を磨き上げる。静物画 No1、人物画 No2			
	2学期	9月 自由制作 10月 自由制作 11月 自由制作 12月 自由制作			
	3学期	1月 風景画制作			
評価方法	完成作品の他、制作過程、出席状況を総合して評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	9,000円程度(油絵セットを持っていない生徒は別に13,000円程度必要です。)				
備考	毎回の課題作品に集中して取り組み、全作品完成させることが必要となる。 絵画Aを履修していない者で、本講座を希望する者は必ず履修登録前に相談すること。				

講座名	ビジュアルデザインB	科目名	ビジュアルデザイン	単位数	4
科目の種類	総合選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	116
履修対象者	大学、専門学校でのデザイン・工芸・建築・服飾・美容への進学希望者及び、デザイン表現に興味関心が強い生徒。				
目標	ビジュアルデザインに関する学習を通して造形的な見方、考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を養う。				
科目の内容	1 学期	4 月 視覚伝達意匠計画基礎（色彩、構成について） 5 月 情報伝達のデザイン（シンボルマーク）、プレゼンテーション 6 月 商品企画とパッケージデザイン 7 月 商品企画とパッケージデザイン			
	2 学期	9 月 地域社会とつながるデザイン・イラストレーション 10 月 地域社会とつながるデザイン・イラストレーション 11 月 商品広告 12 月 雑誌の表紙デザイン			
	3 学期	1 月 雑誌の表紙デザイン			
評価方法	作品への取り組み、内容、提出物、プレゼンテーション、出席状況を総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	5,000 円程度予定（ビジュアルデザインを初めてとる人）				
備考	個人の制作状況によっては、絵具の補充などでさらに経費がかかる場合がある。				

講座名	映像表現	科目名	映像表現	単位数	2
科目の種類	総合選択	授業形態	選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	デザイン・美術・放送・演劇・写真・映画・服飾・美容系進学希望者で制作意欲が極めて強い生徒。				
目標	映像表現に関する学習を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を養う。				
科目の内容	1 学期	4 月 撮影機材について、絵コンテ作成方法 5 月 制作手順と企画計画、映像作品制作（企画、撮影） 6 月 映像作品制作（編集） 7 月 専門家たちの最先端技術による映像作品の鑑賞			
	2 学期	9 月 映像作品制作（企画） 10 月 映像作品制作（撮影） 11 月 映像作品制作（編集） 12 月 映像作品制作（編集 発表）			
	3 学期	1 月 映像作品鑑賞			
評価方法	授業での活動状況、課題への取り組み、作品の完成度、ストーリー、作品レベル、出席状況を総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材	作品制作機材及び材料、鑑賞資料				
諸経費	共通の材料費として 2,000 円程度必要。さらに各自の作品工程により経費がかかる場合がある。				
備考					

【外国語】

講座名	コミュニケーション英語Ⅲ	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業	予定時数	116
履修対象者	大学・短大・専門学校等に進学を希望する生徒				
目標	コミュニケーション英語Ⅱにおける学習内容の定着を図りながら、CEFR・B1レベルの資質・能力を育成する。				
科目の内容	1 学期	4～7 月 精読と多読を組み合わせながら、なるべくたくさんの英文を一定の時間内で読む練習をする。読んだものをその場で理解し、内容を英語で説明できることを目指す。単語テスト・リスニングも行い、語彙レベルを強化する。			
	2 学期	9～12 月 1 学期の学習に加え、英語による要約ができるようにする。引き続き、単語テスト・リスニングも行い、語彙レベルを強化する。英語の 4 技能の向上を図る学習活動・問題演習を行う。			
	3 学期	1 月 単語テスト・リスニング・問題演習等を行う。その他、適宜個別対応			
評価方法	定期考査・小テスト・提出物・授業中の活動などの観点から総合的に評価する。				
使用教科書	BIG DIPPER English Communication III				
使用教材	BIG DIPPER English Communication III ベーシックノート、Listening Laboratory, Listening Reading , Target 1400				
諸経費	新たに購入する教科書・補助教材費				
備考	単語帳を継続使用し、その他リスニングや長文問題集等を加えて使用する予定				

講座名	英語表現ⅡB	科目名	英語表現Ⅱ	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業	予定時数	58
履修対象者	大学・短大・専門学校等に進学を希望する生徒				
目標	英語表現ⅡAにおける学習内容の定着を図りながら、CEFR・B1レベルの資質・能力を育成する。				
科目の内容	1 学期	4～7 月 時制・助動詞・受動態の復習と発展。不定詞・動名詞・分詞の復習と発展 大学入試に対応し得る問題演習			
	2 学期	9～12 月 比較表現・関係詞・仮定法の復習と発展 大学入試に対応し得る問題演習			
	3 学期	1 月 既習事項の復習と発展・大学入試に対応し得る問題演習			
評価方法	定期考査・提出物・授業中の活動などの観点から総合的に評価する。				
使用教科書	英語表現ⅡAの教科書を継続使用				
使用教材					
諸経費	新たに購入する補助教材費				
備考	参考書やエンゲージを継続使用し、その他にも問題集等を加えて使用する予定				

講座名	英語会話Y	科目名	英語会話	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業	予定時数	58
履修対象者	英語を通じて積極的にディスカッション等といった少し高度なコミュニケーション能力を身につけたい生徒。英語会話Xを履修し(てい)ない場合は要相談。				
目標	英語会話X等における既習事項を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。CEFRのB1レベル				
科目の内容	1学期	4~7月 英語で次のような表現を使用できるようになる。 ・予定を尋ねる、答える ・習慣を尋ねる、説明する 6~7月 目的に沿ったテーマでスピーチやディスカッションを行う。			
	2学期	9~10月 英語で次のような表現を使用できるようになる。 ・感情、感想をのべる ・推測する ・主張する ・賛成する ・反対する 11~12月 目的に沿ったテーマでディスカッションを行う。			
	3学期	1月 生徒自身が必要なテーマについてディスカッションする。			
評価方法	授業中の活動・スピーチ・定期考査・ディスカッションテスト・提出物などの観点から総合的に評価する。				
使用教科書	英会話Xの教科書を継続使用				
使用教材	英会話Xの補助教材を継続使用				
諸経費					
備考	各自で写メや写真などといったプレゼン用のものを準備し、授業で使用する場合がある。				

【家庭】

講座名	栄養 Y	科目名	栄養	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業及び実習	予定時数	58
履修対象者	栄養・調理関係、ならびにスポーツ栄養、看護、福祉関係への進路希望者				
目標	栄養の機能と代謝、ライフステージや労働、スポーツと栄養などについて体系的・機能的に理解するとともに、関連する技術を身につける。				
科目の内容	1 学期	4 月 栄養とは 4～6 月 栄養素の機能と代謝 7 月 食事摂取基準と献立			
	2 学期	9 月 乳幼児期、青少年期の栄養、調理実習 10 月 成人期、高齢期の栄養、妊娠・授乳期と栄養、調理実習 11～12 月 労働・スポーツと栄養、病態と栄養			
	3 学期	1～3 月 食生活と健康増進			
評価方法	定期考査、出席状況、課題提出を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	調理実習費を 1,000 円程度				
備考	「栄養 X」と同じ内容なので、重ねての登録はできない。 実習の都合上、上限を 16 名とする。 ※ 新型コロナウイルス感染状況により、内容等を変更する場合がある。				

講座名	調理	科目名	調理	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業	予定時数	58
履修対象者	栄養・調理関係への進学希望者ならびに食生活全般に興味・関心がある者				
目標	調理の基礎を体系的・系統的に学び、技術を身につけるとともに、食文化の成り立ちや日本と世界の食文化について理解する。				
科目の内容	1 学期	4 月 調理の基礎と栄養 5 月 日本の食文化（旬と年中行事）、調理実習 6 月 調理実習 7 月 食品の安全と衛生			
	2 学期	9 月 和洋中様式の料理様式の特徴 10～11 月 調理実習 12 月 テーブルコーディネート			
	3 学期	1 月 おもてなし料理演習			
評価方法	出席状況、提出レポート、実技・筆記考査を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	調理実習費として 5,000 円程度（年間 12 回程度）				
備考	調理台数の都合で 16 名を上限とする。 ※ 新型コロナウイルス感染状況により、内容等を変更する場合がある。				

講座名	ファッション造形基礎 B	科目名	ファッション造形基礎	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	衣服製作や服飾に興味・関心のある者				
目標	デザインや着用目的に応じたファッション造形の知識や技術を習得させ、創造的に製作する能力と態度を育てる。				
科目の内容	1 学期	4～7月 原型を利用したワンピース製作(1)			
	2 学期	9月 原型を利用したワンピース製作(2) 文化祭に作品展示（一部ファッションショーに作品出展） 10～12月 自由製作			
	3 学期	1月 自由製作			
評価方法	作品、授業への取り組み態度、出席状況を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	各自負担（布、糸等の実習材料）				
備考	2年で「ファッション造形基礎 A」、「ファッションデザイン」を選択していると望ましい。作業台数の都合により、18名を上限とする。				

講座名	子ども文化	科目名	子ども文化	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	保育および初等教育を進路として目指す者。保育に興味・関心がある者。				
目標	子どもの遊び、表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させ、子ども文化の充実を図る能力と態度を育てる。				
科目の内容	1 学期	子どもの文化や遊びを通して、子育ての意義や保育の役割について学ぶ。 4月 こども文化の理解 5～7月 子どもの遊びについて（手作りおもちゃ制作、壁面飾り制作等）			
	2 学期	子どもの文化や遊びを通して、子育ての意義や保育の役割について学ぶ。 9月 子どもを取り巻く環境について 10～11月 児童文化財 人形劇・紙芝居の実演（絵本、紙芝居読み聞かせ実習） 12月 保育園訪問ならびにその準備			
	3 学期	子どもの文化や遊びを通して、子育ての意義や保育の役割について学ぶ。 1月 少子高齢化社会と児童福祉			
評価方法	定期考査、出席状況、授業態度、提出作品・レポートを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	材料費は各自負担（1,000円程度）				
備考	新型コロナウイルス感染状況により、内容等を変更する場合がある。実習を伴うため、20名程度。				

【福祉】

講座名	生活支援技術B	科目名	生活支援技術	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	福祉・保育・教育・看護医療系への進学希望者				
目標	視覚障害にかかわる知識や技術を深め、生活支援に必要な知識や技術を習得する。				
科目の内容	1 学期	2 学年で学習した「生活支援技術 A」の学習をさらに深めて実践的に学習する。同行援護従業者（視覚障害者のガイドヘルパー）について学習を深める。 4 月 障害者福祉に関する制度とサービス 5 月 身体障害者ホームヘルプサービスに関する知識、サービス利用者の理解 6～7 月 視覚障害者の疾病・障害理解、障害者（児）の心理			
	2 学期	9 月 移動支援の基礎知識、移動の支援に係る技術 10 月 移動の支援に係る技術 11 月 移動の支援に係る技術・障害者の生活と心理 12 月 移動の支援に係る技術・自立生活支援と介護			
	3 学期	1 月 地域生活を支えるシステム			
	評価方法	出席状況、授業への取り組み、課題の提出、定期考査などを総合的に評価する。			
使用教科書	『生活支援技術』実教出版				
使用教材	『同行援護従業者養成研修テキスト』中央法規				
諸経費	実習に伴う費用として 500 円程度				
備考	<p>「生活支援技術 B」では同行援護従事者（視覚障害者ガイドヘルパー）の養成研修を行うため、通常の授業よりも 10 分早く開始する。規定の時数の出席がない場合は研修修了とならないので、しっかり出席すること。</p> <p>1・2 年次に「社会福祉基礎 X または Y」を履修しなかった生徒は、あわせて「社会福祉基礎 Y」を選択すること。</p> <p>2 年次に「生活支援技術 A」を選択した生徒が選択することにより、より内容を深めることができる。</p> <p>希望者は夏休みに実施する家庭・福祉科合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）</p>				

講座名	介護総合演習	科目名	介護総合演習	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	保育・福祉系への進路希望者				
目標	社会福祉にかかわる諸現象に興味関心を広げ、実技的な内容から福祉について考えを深める。				
科目の内容	1 学期	年間通じ社会福祉に関わる調査研究や園芸・クラフトなどを行う。 4 月 社会福祉の現状理解・園芸活動 5 月 統計資料の活用・園芸活動・クラフト 6～7 月 福祉に関わる社会資源マップ・園芸活動・クラフト			
	2 学期	9～11 月 福祉現場で求められるサービス内容 福祉に関わる職員の対応のあり方 園芸活動・クラフト 12 月 目標の設定・クラフト			
	3 学期	1 月 ケアプランの考え方・クラフト			
評価方法	出席状況、授業への取り組み、課題や作品の提出などを総合的に評価する				
使用教科書	『生活支援技術』実教出版				
使用教材					
諸経費	年間通じ 2000 円程				
備考	希望者は夏休みに実施する家庭・福祉科合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。(参加費用が別途かかる)				

講座名	*手話実習	科目名	手話実習	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	保育・福祉系への進路希望者				
目標	聴覚障害者理解と手話の知識・技術を習得し、コミュニケーションを考える。				
科目の内容	1 学期	聴覚障害者の理解を深めコミュニケーション方法のあり方について学習する。 4 月 聴覚障害者とコミュニケーション方法 5 月 指文字表現・手話単語表現および読み取り 6 月 手話単語表現および読み取り 7 月 短文の表現および読み取り			
	2 学期	9 月 短文の表現および読み取り 10 月 手話単語表現および読み取り 11～12 月 長文の表現・応用の表現と手話検定 4 級の受験			
	3 学期	1 月 重複障害者におけるコミュニケーション方法の理解			
評価方法	出席状況、授業への取り組み、課題の提出、定期考査などを総合的に評価する				
使用教科書	『手にことばを』				
使用教材	手話辞典				
諸経費	テキスト・手話辞典の他に検定費として 5,500 円程度				
備考	希望者は夏休みに実施する家庭・福祉科合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。(参加費用が別途かかる)				

【情報】

講座名	*情報演習F (データベース)	科目名	情報演習 F	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	データベースに興味があり Access をマスターしたい者 Excel が使える者				
目標	データベースの構築、操作方法、管理について、基礎的な知識や技術を身に付ける。				
科目の内容	1 学期	Access 等を利用してリレーショナル型データベースを学習する。 4 月 データベース概要 5 月 データベースの設計と作成の概要 6 月 簡単なデータベース作成① (テーブル、リレーションシップ) 7 月 簡単なデータベース作成② (クエリ、フォーム)			
	2 学期	9 月 データベースの構築① (テーブルの活用、各フィールドの設定方法) 10 月 データベースの構築② (リレーションシップ、参照整合性) 11 月 データベースの構築③ (クエリの活用、様々な抽出方法、アクションクエリ) 12 月 データベースの運用① (フォームの活用、レポートの活用)			
	3 学期	1 月 SQL 言語の基礎① 2 月 SQL 言語の基礎②			
評価方法	出席状況、課題制作物提出状況、小テスト、平常活動などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	講義と小テストを中心とした教授形態です				

講座名	*情報演習G (マルチメディア②)	科目名	情報演習 G	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	ビデオ編集やCGに興味がある者				
目標	CGに関する基礎的な知識や技術を身に付ける。				
科目の内容	1 学期	3次元コンピュータグラフィックスに関する基礎基本、動画像を扱う各種アプリケーションの操作方法を学習する。 4 月 3次元CGの原理と基礎 5 月 CGモデルの作成、質感の設定、レンダリング 6 月 作品制作演習(1) 7 月 3次元CGアニメーションの作成			
	2 学期	9 月 特殊効果等の編集 10 月 Webアニメーションの作成と原理 11 月 ビデオ編集に関する基礎 12 月 総合作品制作演習(2)			
	3 学期	1~2 月 総合作品制作演習(3)			
評価方法	出席状況、課題制作物提出状況、小テスト、平常活動などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	講義と小テスト及び実習を組み合わせた授業形態です。				

【工業】

講座名	*総合工作実習	科目名	総合工作実習	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 12名以内での工作実習	予定時数	58
履修対象者	ものづくりに興味・関心がある者				
目標	機械、電気、アプリケーションなどを学習し、自分独自の作品を完成させる。				
科目の内容	1学期	LED フォトスタンドの製作を通して、電気・電子・機械の基礎知識や工作技術を学ぶ総合的な作品製作実習 4月～5月 製作図面の見方について 6月 3DCAD で設計図の作図 7月 画像加工ソフトを使用して作品製作準備			
	2学期	9月 はんだ付け練習、サンドブラスト準備 10月～11月 電気回路の配線組立 12月 本体の加工と組立・調整			
	3学期	1月 作品完成			
評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、製作課題、報告書などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	材料費 約 600 円 (各自負担)				
備考					

講座名	*CAD II	科目名	CAD II	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 16名以内での実習形式	予定時数	58
履修対象者	CAD I を修得した者				
目標	更に高度な3DCADの使い方を習得し、より良い作品を造る。				
科目の内容	1学期	3DCAD[Solid Works]を発展的に活用し、自分のアイデアをもとに工業製品等の図面を描く 4～7月 コンテスト出展を目指し、3D図面を製作する			
	2学期	9月 平面(2D)図面製作のための基礎 10～12月 CAD/CAM や3Dプリンターを使用して課題作品製作			
	3学期	1月 作品完成			
評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、製作課題、報告書などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	*ロボット入門	科目名	ロボット入門	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 10名以内での工作実習	予定時数	58
履修対象者	ものづくりに興味・関心がある者				
目標	ラインレースロボットを製作することで、ものづくりに興味・関心を持つ。				
科目の内容	1学期	ロボット（ミニ）の初歩の技術を学ぶ。電気・電子・機械・制御技術の基礎・基本を学習し、ラインレースロボットの製作を行う 4～5月 ロボット制御の基本技術の学習 6～7月 電子部品についての学習、はんだ付けの練習			
	2学期	9月 プリント基板の製作と電子回路の組立 10月 配線や本体の加工等 11月 本体・ギアボックスの組立・加工 12月 ロボット制御用プログラミングの学習と最適化プログラムの制作			
	3学期	1月 ロボットの走行チェック、作品完成			
評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、製作課題、報告書などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	教科書代その他、材料費 約 5,000 円（各自負担）				
備考					

講座名	*環境科学	科目名	環境科学	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	地球環境に興味関心がある者				
目標	工業での地球環境改善方法を学習して、環境についての興味・関心を持つ。				
科目の内容	1学期	4月 地球と人類 5月 社会と環境 6月 地球温暖化とエネルギー 7月 廃棄物とリサイクル			
	2学期	9月 地球環境の保全 10月 産業と環境 11月 都市生活と環境 12月 住環境と健康			
	3学期	1月 環境工学について			
評価方法	定期考査、授業の取り組み、提出物などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

【商業】

講座名	ビジネス情報	科目名	ビジネス情報	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	高校卒業後、事務・営業系への就職希望者 将来的に事務系や営業系の職種へ就きたい者 ワープロや表計算ソフトの操作に関して、学習や習熟が不十分であると感じている者 ただし、「情報演習A・D・E・F」を既に履修している者は対象外とする。				
目標	事務職・営業職などへの就業に有用なソフトウェアの操作や活用方法を身につける。				
科目の内容	1 学期	4 月 情報化と社会（ビジネスと情報、業務の情報化の推進など） 5～6 月 ビジネス情報の作成①（ワープロソフトによりビジネス文書の実際を学習） 7 月 ビジネス情報の作成②（表計算ソフトにより基礎的な情報集約の方法を学習）			
	2 学期	9～10 月 ビジネス情報の分析①（表計算ソフトの活用） 11 月 ビジネス情報の分析②（各データ分析法および応用等） 12 月 財務情報・販売情報の見方と分析、活用など			
	3 学期	1 月 まとめ・総合演習			
評価方法	課題の進捗状況、授業態度を総合的に評価する なお、授業において推奨した検定試験の受検者には加点を行う				
使用教科書	ビジネス情報 新訂版 東京法令出版				
使用教材					
諸経費	教科書および補助教材（1,000 円程度）の代金以外は不要				
備考	履修希望者が定員を超えた際は、簿記・ビジネス基礎を既に履修している者・今回履修する者を優先する。				

講座名	ビジネス経済	科目名	ビジネス経済	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	高校卒業後、就職を希望する者 経済・経営系学部への進学希望者 企業活動や金融の仕組み、経済に関する時事問題などに関心がある者。				
目標	経済にまつわる様々な仕組みや現代社会の動きについて、やや専門的な知識を身につける。				
科目の内容	1 学期	4～6 月 資本主義経済と財政・金融・流通の仕組み 7 月 経済に関する時事問題			
	2 学期	9～10 月 日本・世界の経済情勢とビジネス 11 月 今後の経済情勢とビジネス 12 月 経済に関する時事問題			
	3 学期	1 月 レポートの発表と相互評価			
評価方法	定期考査、課題の提出状況、レポートの進捗状況を総合的に評価する				
使用教科書	ビジネス経済 実教出版				
使用教材					
諸経費	教科書代金以外は不要				
備考	年間を通じて、授業内容に関連するテーマでレポートを完成させることを求める。このレポートのテーマ設定や進捗状況を、各学期の評価において重視する。				

講座名	簿記B	科目名	簿記	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	「簿記A」を現在履修中の者				
目標	日商3級および全商2級程度の範囲について、簿記の知識・技術を身につける				
科目の内容	1学期	4～5月 取引の記帳①（特殊商品売買、特殊な手形取引、保証債務の取引など） 6月 伝票（5伝票制と伝票の集計） 7月 決算①（決算手続の復習、2区分式の損益計算書など）			
	2学期	9～10月 取引の記帳②（本支店会計、株式会社の記帳、社債の発行と償却など） 11月 決算②（本支店会計下における貸借対照表・損益計算書の作成など） 12月 財務諸表の読み方と分析			
	3学期	1月 検定問題の演習			
評価方法	課題の進捗状況、授業で指定した検定試験の結果などを総合的に評価する				
使用教科書	高校簿記 新訂版 実教出版				
使用教材					
諸経費	問題集・検定試験受験料で計5,000円程度				
備考	履修者は指定の検定試験を受検しなければならない。 日商簿記3級の合格者および相当する知識を有する者については、「簿記A」を未履修であっても筆記テストで能力を確認した上、履修を認めることがある。（この場合「簿記A」を履修することはできない）				

【国際文化理解】

講座名	ロジカルコミュニケーションスキル	科目名	ロジカルコミュニケーションスキル	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	ディベートに興味がある者。大学進学や海外生活、異文化コミュニケーションのために、日本語・英語両方で論理的・戦略的に思考・表現する力を身につけたい者。英語の基礎力があり、毎回与えられる課題や、授業外の調査活動にも積極的に取り組む意欲のある者。				
目標	言語力を豊かにし、論理的思考力・表現力・コミュニケーション能力を向上させる。				
科目の内容	1学期	4～5月 オリエンテーション、ディベートの基礎 6～7月 論理的思考訓練（日本語・英語）			
	2学期	9～10月 論理的思考力の養成、書く力・話す力の養成（日本語・英語） 11～12月 ディベート訓練（日本語・英語）・ディベート実戦演習（日本語）			
	3学期	1月 ディベート実戦演習（英語）			
評価方法	毎授業における英語課題・レポート、補充課題、小テスト、授業への参加状況、ディベートでの活動状況およびファイルの提出状況を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	教養講座。ディベートとは「ある論題について、肯定側と否定側に分かれてルールに則った議論を行い、第三者（審判）によって、どちらがより論理的で説得力があったかを判定して勝敗を決める競技」である。日本語・英語双方のディベートを扱う。				

○3年次に選択可能な2年次科目

【地理歴史】

講座名	世界史 A	科目名	世界史 A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	地歴科の履修条件を満たす必要のある生徒				
目標	近現代の世界の歴史についておおまかな流れを理解する。				
科目の内容	1 学期	4～5 月 近世ヨーロッパの動向 欧米の諸革命 6～7 月 ヨーロッパ勢力の拡大 アジアの動向			
	2 学期	9～10 月 帝国主義と第1次世界大戦 11～12 月 戦間期と第2次世界大戦			
	3 学期	1～3 月 第2次世界大戦後の世界			
評価方法	定期考査、授業への取り組みなどを総合的に評価する				
使用教科書	新版世界史A 新訂版（実教出版）				
使用教材	最新世界史図説タペストリー 十九訂版				
諸経費					
備考					

講座名	世界史 B	科目名	世界史 B	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	116
履修対象者	世界史に興味を持つ者 世界史Bを受験科目とする者				
目標	近現代につながる世界の歴史の大きな枠組みや文化の多様性を理解する。				
科目の内容	1 学期	4～5 月 オリентと地中海世界 6～7 月 アジア・アメリカの古代文明 東アジア世界の形成と発展			
	2 学期	9～10 月 内陸アジア世界の変遷 イスラーム世界の形成と発展 11～12 月 ヨーロッパ世界の形成と発展			
	3 学期	1～2 月 アジア諸地域の繁栄			
評価方法	定期考査、小テスト、授業への取り組み状況を総合的に評価する				
使用教科書	詳説世界史 改訂版（山川出版社）				
使用教材	最新世界史図説タペストリー 十九訂版 世界史重要語句 Check List2022 年度版				
諸経費					
備考					

講座名	日本史 A	科目名	日本史 A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	地歴科の履修条件を満たす必要のある生徒				
目標	近現代の日本の歴史についておおまかな流れを理解する。				
科目の内容	1 学期	4 月 開国と幕末の動乱 5～7 月 明治維新と近代国家の形成			
	2 学期	9 月 国際関係の推移と近代産業の成立 10～11 月 第一次世界大戦と日本 12 月 第二次世界大戦と日本			
	3 学期	1 月 戦後の政治と社会 2 月 経済国家としての発展 3 月 現代の日本と世界			
評価方法	定期考査を、提出物、授業への取り組みなどを総合的に評価する				
使用教科書	高等学校 改訂版 日本史 A 人・くらし・未来 (第一学習社)				
使用教材	最新日本史図表 四訂版				
諸経費					
備考					

講座名	日本史 B	科目名	日本史 B	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	116
履修対象者	日本史 B を受験科目とする者 日本史を詳細に学びたい意欲のある者				
目標	近現代につながる日本の歴史の大きな流れや世界との関連を理解する。				
科目の内容	1 学期	大学受験レベルに対応できる政治・社会・経済史など一般通史を学ぶ(各学期同様) 4 月 旧石器時代から弥生時代 5 月 古墳時代、ヤマト政権、推古朝 6 月 律令国家、奈良時代 7 月 平安時代初期の政治			
	2 学期	9 月 摂関政治、荘園と武士 10 月 院政、武士の登場、平氏政権 11 月 鎌倉時代 12 月 室町幕府の成立			
	3 学期	1 月 室町幕府の衰退と庶民の台頭 2 月 戦国大名の登場 3 月 織豊政権			
評価方法	定期考査、授業への取り組み、課題の提出状況などを総合的に評価する				
使用教科書	詳説日本史 改訂版 (山川出版社)				
使用教材	最新日本史図表 四訂版 一問一答日本史 第3版				
諸経費					
備考	織豊政権以降の範囲は、「日本史 B 演習」で実施する。				

講座名	地理 B	科目名	地理 B	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	116
履修対象者	地理Bを受験科目とする者 地理的な出来事や世界の諸問題に関心がある者 地図を見たり旅行したりすることが好きな者など				
目標	世界の地形や環境、生活文化の理解を通じて、地理的な見方や考え方を身につける				
科目の内容	1 学期	4月 地形環境を中心に地球環境を理解し、人々の生活との関連を理解する。 5月 気候環境を中心に地球環境を理解し、人々の生活との関連を理解する。 6～7月 農産物や鉱産物などの生産・流通の仕組み、世界の衣食住の概要を理解し、生活と文化についての基本的事象を理解する。			
	2 学期	9月 地形図の読み方を習得し、地域調査法を理解する。 10月 アジア、アフリカの生活や文化を理解する。 11～12月 ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアの生活や文化を理解する			
	3 学期	1月 身近な地域の調査法を理解する。 2～3月 食糧問題、都市問題、資源・エネルギー問題など、現代世界が抱える地球規模の諸問題の現状を理解し対策を考察する。			
評価方法	定期考査、授業内のワークや課題の提出状況などを総合的に評価する				
使用教科書	新詳地理B（帝国出版）				
使用教材	新詳高等地図				
諸経費					
備考					

【体育】

講座名	*リバースポーツ	科目名	リバースポーツ	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	実技および講義	予定時数	58
履修対象者	水辺や山でのレクリエーションに興味があり、基礎技能や指導方法を身につけたい者				
目標	水辺での体験活動を通じて、豊かな人間性と、自ら学び、自ら考える力を身につける。				
科目の内容	1 学期	4～7月・カヌーやシーカヤックの特性を講義や実技を通して理解する。 ・カヌーやシーカヤック等を使用し川で安全に活動ができるようにする。			
	2 学期	9～12月・水辺での事故防止や救急法を理解するとともに、実践できるように習得する。 ・プールまたは多摩川において、カヌーやシーカヤックの操作法を習得する。			
	3 学期	1～3月・安全にキャンプや水辺での活動を行えるように、指導法や理論を身につける。 ・多摩川流域の調査、問題提起を行い、グループ学習によりレポート作成を行う。			
評価方法	出席状況、活動状況などを総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	水辺で使用する、衣類および専用の靴を用意すること。				

【芸術】

講座名	*現代の書道	科目名	現代の書道	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	書の多様な世界に興味があり、書の表現技術を高めようと思う者。				
目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を養う。				
科目の内容	1 学期	4 月 オリエンテーション 5 月 各書体の基本的な表現方法 6 月 古典の学習 7 月 古典の表現技法を応用した創作活動			
	2 学期	9 月 様々な表現技法による創作活動 10 月 様々な表現技法による創作活動 11 月 刻字 12 月 紙面構成			
	3 学期	1 月 篆刻 2 月 身の回りの文字の表現について 3 月 様々な用材による創作活動			
評価方法	提出作品、学習意欲や学習態度などを元に総合的に評価する。定期考査なし。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	筆・文鎮・下敷きなどは生徒が用意する。				

講座名	*現代の工芸	科目名	現代の工芸	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	美術系、工芸系の進路を考えている者。また、工芸を真剣に愛好する者。				
目標	幅広い創造活動を通して、生活や社会を心豊かにする新しい工芸技術を身に付ける。				
科目の内容	1 学期	4～7 月 木目込等による制作			
	2 学期	9～10 月 新素材による立体造形 1（技法の基礎） 11～12 月 レジン・樹脂粘土による造形			
	3 学期	1～3 月 新素材による立体造形 2（技法の応用）			
評価方法	完成作品が提出されていることが前提で、出席状況・授業態度、作品の制作過程、完成度などを総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	材料費の購入に 5,000 円程度必要				
備考	削る・磨くなどの細かくて地味な作業が多く、課題によっては正確さを求められる。 課題作品には意欲・根気を持って取り組み、提出期限を守ること。 ※ 課題内容は都合により若干変更される場合があります。 尚、有機溶剤や漆のアレルギーを持っている生徒は事前に相談してください。				

座名	*陶芸A	科目名	陶芸 A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	陶芸を通して生活を豊かにしたい者				
目標	陶芸の基本的な技術を身に付け、発想や構想したことを創造的に表す。				
科目の内容	1 学期	4～6 月 手びねりにより基礎行程を学ぶ 6～7 月 電動ろくろの基本技術を学ぶ			
	2 学期	9～12 月 電動ろくろの実習、基本形体を作る（茶器など） 電動、手びねり、各自選択して制作する			
	3 学期	1～3 月 課題制作、食器、花器等の制作			
評価方法	観点別に関心・意欲、発想・構想、技能、鑑賞を評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	5,000 円程度（材料費として）				
備考	作業着が必要（ジャージ可）※課題内容は都合により変更される場合があります。				

講座名	*陶芸B	科目名	陶芸	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	陶芸作品に関心があり、ものづくりに真摯に取り組める者。				
目標	陶芸の基本的な技術を身に付け、発想や構想したことを創造的に表す。				
科目の内容	1 学期	4～7 月 つば、大皿、パーツもの（急須）などを電動ろくろにより制作			
	2 学期	9～12 月 自主的に課題を設定し制作（現代的表現及び抽象形態の制作も可）			
	3 学期	1 月 自主的に課題を設定し制作（2 学期のつづき）			
評価方法	発想、構想の能力と作品を形にする際の熱意、技能の適正さを評価				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	5,000 円程度（材料費として）				
備考	作業着が必要（ジャージ可） ※課題内容は都合により若干変更される場合があります。 2 年次に履修したものは履修できません。				

講座名	クラフトデザインA	科目名	クラフトデザイン	単位数	2
科目の種類	総合選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	デザイン・工芸に進路を考えている者。立体造形やデザインに興味がある者。				
目標	立体造形のデザインについて理解を深め、計画力、作図、読図の能力や制作の能力を高める。				
科目の内容	1 学期	4 月 作図等 5～7 月 織り等			
	2 学期	9～10 月 染め等の技法 11～12 月 革工芸（レザーデザイン）			
	3 学期	1 月 七宝焼等、金属を使った制作 1～3 月 様々な素材による立体制作			
評価方法	完成作品が提出されていることが前提で、出席状況・授業態度、作品の制作過程、完成度などを総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	材料費の購入に 5,000 円程度必要				
備考	課題作品には意欲・根気を持って取り組み、提出期限を守ること。				

講座名	クラフトデザインB	科目名	クラフトデザイン	単位数	2
科目の種類	総合選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	授業時数	58
履修対象者	デザイン・工芸に進路を考えている者。立体造形やデザインに興味がある者。				
目標	立体造形のデザインについていっそう理解を深め、計画力、作図、読図の能力や制作の能力を高める。				
科目の内容	1 学期	4～7 月 木工芸（テーブルウェア等）			
	2 学期	9～12 月 自由制作（多素材・商品化・パッケージ等総合デザイン）			
	3 学期	1 月 新素材による立体造形			
評価方法	完成作品が提出されていることが前提で、出席状況・授業態度、作品の制作過程、完成度などを総合的に評価する。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	材料費の購入に 6,000 円程度必要				
備考	細かくて地味な作業や、集中力と丁寧さが求められる。 課題作品には意欲・根気を持って取り組み、提出期限を守ること。 2 年次に履修したものは履修できません。				

【外国語】

講座名	英語会話X	科目名	英語会話	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	一斉授業	予定時数	58
履修対象者	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図りたい、また身近な話題について会話したい生徒				
目標	コミュニケーション英語Ⅰ・英語表現Ⅰにおける学習内容を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うことができるようにする。CEFRのA2レベル				
科目の内容	1学期	4～5月 英語で次のような活動ができるようになる。 ・自己紹介、挨拶、意味を尋ねる ・聞き返す、説明する、許可を求める ・与える、リストアップする、意見を言う 6～7月 自身に関するテーマ（名前、趣味など）でスピーチを行う。			
	2学期	9～10月 英語で次のような活動ができるようになる。 ・興味関心を伝える ・誘う、断る ・許可を求める、許可しない ・同情する ・事情を理解する ・助言する 11～12月 目的に沿ったテーマ（旅行、レシピなど）でスピーチを行う。			
	3学期	1～3月 英語で次のような活動ができるようになる。 ・描写する ・距離、方角や場所の特徴 ・道案内 ・買い物での会話 ・レストランでの会話 ・過去に起きた出来事 目的に沿ったテーマ（本、映画など）でスピーチを行う。			
評価方法	授業中の活動・スピーチ・定期考査・会話テスト・提出物などの観点から総合的に評価する。				
使用教科書	Hello there! English Conversation（東京書籍）				
使用教材	Hello there! English Conversation WORKBOOK Talk a Lot Book 2 Second Edition				
諸経費					
備考	各自で写真などのプレゼン用資料を準備し、授業で使用する場合がある。				

【家庭】

講座名	ファッション造形基礎A	科目名	ファッション造形基礎	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	衣服製作や服飾に興味・関心のある生徒				
目標	被服の構成、被服材料の種類や特徴など、被服製作に関する知識と技術を習得させ、基礎的な能力と態度を育てる。				
科目の内容	1学期	4～5月 採寸と原型作成 5～7月 スカートの製作			
	2学期	9月 文化祭において作品を展示（ファッションショーに出品） 9～12月 原型を応用したシャツの製作			
	3学期	1～3月 自由製作			
評価方法	作品、授業への取り組み、出席状況を総合的に評価する				
使用教科書	ファッション造形基礎（実教出版）				
使用教材					
諸経費	各自負担（布、糸等の実習材料）				
備考	2年次にファッションデザインの科目を修得していると望ましい。 作業台数の都合により、16名を上限とする。				

講座名	服飾手芸	科目名	服飾手芸	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者への一斉授業	予定時数	58
履修対象者	手芸に興味がある者				
目標	実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手工芸品の製作と服飾への活用のために必要な資質や能力を養う。				
科目の内容	1 学期	4月 手芸作品（フェルトや刺繍を使って） 5～7月 パッチワークを応用したテディベア製作			
	2 学期	9月 文化祭において作品を展示 10～12月 かぎ針による編物の製作			
	3 学期	1～3月 棒針による編物（マフラー）の製作			
評価方法	出席状況、授業への取り組み、作品などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	布、糸等の実習材料（各自負担）				
備考	個別指導が中心になるため 16 名程度が望ましい				

講座名	消費生活	科目名	消費生活	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者への一斉授業	予定時数	58
履修対象者	家庭経済および生活設計に興味・関心のある者				
目標	消費者の視点に基づく豊かな消費生活の実現を担う社会人として必要な資質・能力を育成する。				
科目の内容	1 学期	人生をどのように生きるか、どのように生活するかについて、経済面を中心に学ぶ。 4～5月 一人暮らしのための生活設計 6～7月 契約と消費生活（消費者トラブルの回避方法・対処方法）			
	2 学期	人生をどのように生きるか、どのように生活するかについて、法律面を中心に学ぶ。 9～10月 消費者生活と安全、生活情報の活用について 11～12月 生活と法律について			
	3 学期	人生をどのように生きるか、どのように生活するかについて、卒業後の経済的な自立をシミュレーションする。 1～2月 家計管理および貯蓄について			
評価方法	定期考査、出席状況、授業での課題への取り組みと提出レポートを総合的に評価する				
使用教科書	消費生活（教育図書）				
使用教材					
諸経費					
備考					

【福祉】

講座名	社会福祉基礎 Y	科目名	社会福祉基礎	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	福祉・保育系への進路を希望する者				
目標	社会福祉にかかわる歴史的背景や現状を知り、現状や今後の課題などに意識を高める。				
科目の内容	1 学期	社会福祉に関わる基礎的なことがらについて学習する。			
		4 月	福祉の職業	5 月	現代社会と社会福祉
		6 月	社会福祉の理念と意義	7 月	社会福祉の歩み
	2 学期	9～10 月 福祉分野の現状と課題 11～12 月 障害者・高齢者理解			
	3 学期	1 月 障害者・高齢者理解 2～3 月 社会福祉の担い手と福祉社会への展望			
評価方法	出席状況、授業への取り組み、課題の提出、定期考査などを総合的に評価する				
使用教科書	『社会福祉基礎』（実教出版）				
使用教材	新課程 社会福祉基礎学習ノート				
諸経費	教科書の他に 5,000 円程度（クラフト材料・手話検定）				
備考	1 年次の「社会福祉基礎 X」と同一内容。 「生活支援技術 A・B」を選択する生徒はあわせて選択することにより、より内容を深めることができる。 希望者は夏休みに実施する家庭・福祉科合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）				

講座名	*点字実習	科目名	点字実習	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	保育・福祉系への進路を希望する者				
目標	視覚障害者理解と点字の知識と技術を習得することから、コミュニケーションを考える。				
科目の内容	1 学期	視覚障害者への理解を深め、点字の基礎から学習をする。			
		4 月	視覚障害者理解	5 月	点字の成り立ち
		6 月	点字の基礎	7 月	分かち書き
	2 学期	9 月 分かち書き 10～11 月 短文の点訳 12 月 郵便物や長文の点訳			
	3 学期	1 月 重複障害者におけるコミュニケーション方法の理解 視覚障害者ガイドヘルプの知識 2～3 月 コンピュータ点訳による点字の作文			
評価方法	出席状況、授業への取り組み、課題の提出、毎時間の小テストなどを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材	初めての点訳 第3版				
諸経費	テキストの他に点字盤・点筆・点消し棒・点字用紙などの費用として 2,000 円程度				
備考	「生活支援技術 A・B」を選択する生徒はあわせて選択することにより、より内容を深めることができる。 希望者は夏休みに実施する家庭・福祉科合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）				

【情報】

講座名	情報演習 A (文書デザイン)	科目名	情報演習 A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	文書作成に興味のある者				
目標	文書作成能力、起案能力、知識等、実務に関する知識・技術を身につける。				
科目の内容	1 学期	<p>文書処理に関する基礎技術を学ぶ。タイピング練習、全商ビジネス文書実務検定 1,2 級程度の問題を 通年で学習する。</p> <p>4 月 ワープロソフト基本操作① (ワープロソフト概要、タイピング練習 [通年]) 5 月 ワープロソフト基本操作② (文字の入力) 6 月 文書レイアウト、ビジネス文書作成 7 月 各種編集作業、表の作成 (罫線の活用、計算、ソート)</p>			
	2 学期	<p>9 月 様々な表現方法 (図形の活用、様々な罫線表現、色) 10 月 ワープロソフトを活用したデザイン、図表等 11 月 POP デザイン制作 12 月 DTP ソフトを利用したデザイン広告製作</p>			
	3 学期	<p>1 月 DTP ソフトを利用した文書レイアウト応用 2~3 月 DTP ソフトを利用した紙面のデザインとレイアウト</p>			
評価方法	出席状況、課題制作物提出状況、小テスト、平常活動などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費	最大 4,000 円程度 (検定試験受験料)				
備考	ビジネス文書実務検定試験受験が必須となる。				

講座名	情報演習 B (マルチメディア①)	科目名	情報演習 B	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	マルチメディアに興味のある者				
目標	画像処理に関する基礎的な知識や、実際に活用する能力を身に付ける。				
科目の内容	1 学期	<p>静止画像を中心として扱う。画像の処理合成、グラフィックデザインの制作等を通じて、各種グラフィックス関連ソフトの使用方法を学ぶ。</p> <p>4 月 ペイント系アプリケーションソフトの原理と操作方法 5 月 写真画像の選択編集、色調補正、フィルタの利用、画像合成の方法 6 月 画像入力装置の操作、文字の作成編集、総合作品制作 7 月 ドロー系アプリケーションソフトの原理と操作方法</p>			
	2 学期	<p>9 月 ベジェ曲線の作成演習、画像構成、画面効果に関する基礎知識 10 月 レイアウト編集 11 月 ピクトグラム制作 12 月 写真のトレース</p>			
	3 学期	<p>1 月 CD ジャケット・ポスター等の制作 (1) 2~3 月 CD ジャケット・ポスター等の制作 (2)</p>			
評価方法	出席状況、課題制作物提出状況、平常活動などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	情報演習 G (マルチメディア②) の受講を考えている者は本講座も履修することが望ましい。				

講座名	情報演習C(通信ネットワーク)	科目名	情報演習C	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	通信ネットワークに興味のある者				
目標	情報通信ネットワークを活用し、情報社会に主体的に参画するための能力を身に付ける。				
科目の内容	1 学期	<p>ネットワークの基礎、HTML の理解、ネットワークの構築、ネットワークの運用、ネットワークの安全対策等の学習をおこなう。</p> <p>4 月 インターネットと情報通信ネットワークの仕組み、HTML と CSS の基礎と活用</p> <p>5 月 通信ネットワークシステムの基本的構成、WEB サーバの構築と活用</p> <p>6 月 FTP サーバの利用と構築</p> <p>7 月 スクリプト等の活用</p>			
	2 学期	<p>9 月 CGI 等の利用と構築(1)</p> <p>10 月 CGI 等の利用と構築(2)</p> <p>11 月 通信ネットワークシステムの構築</p> <p>12 月 通信ネットワークシステムの運用・管理</p>			
	3 学期	<p>1 月 WEB ページの保護とセキュリティの知識・技術</p> <p>2～3 月 WEB ページの運用・管理</p>			
評価方法	出席状況、課題制作物提出状況、小テスト、平常活動などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	情報演習D(プログラミング)	科目名	情報演習D	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	プログラミングに興味のある者				
目標	簡単なプログラミングの学習を通して、アルゴリズムに関する基礎的な知識を修得する。				
科目の内容	1 学期	<p>コンピュータプログラミングの考え方を学ぶ。原則として HTML 等でのプログラミングの学習を通じて基礎的なプログラミングの方法を学ぶ。</p> <p>4 月 プログラミングの基礎と原理</p> <p>5 月 構造化プログラミングの方法</p> <p>6 月 基礎的なプログラム言語を用いた活用</p> <p>7 月 様々な簡易プログラミング言語の利用(1)</p>			
	2 学期	<p>9 月 様々な簡易プログラミング言語の利用(2)</p> <p>10 月 プログラミングを利用した開発方法と手順</p> <p>11 月 開発ツールの利用とライブラリ</p> <p>12 月 アプリケーション開発演習(1)</p>			
	3 学期	<p>1 月 アプリケーション開発演習(2)</p> <p>2～3 月 アプリケーション開発演習(3)</p>			
評価方法	出席状況、課題制作物提出状況、小テスト、平常活動などを総合的に評価する				
使用教科書	高等学校 改訂版 社会と情報(第一学習社)				
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	情報演習E(シミュレーション)	科目名	情報演習E	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	表計算に興味がある者 Excelを習得したい者				
目標	表計算ソフトウェアを利用し、実社会で活用できる能力を身に付ける。				
科目の内容	1 学期	4月 Excelの復習(簡単な計算) 5月 活用①ワークシート連携(シート間集計、3D参照、シートリンク、データ統合) 6月 活用②グラフ、印刷に関する操作 7月 データベースに関する操作			
	2 学期	9月 エクセル応用①表計算機能(様々な関数の活用) 10月 エクセル応用②マクロ機能の活用 11月 モデル化とシミュレーションについて(1) 12月 モデル化とシミュレーションについて(2)			
	3 学期	1月 表計算の活用、シミュレーションの基本 2~3月 自然現象や社会現象のシミュレーション			
評価方法	出席状況、課題制作物提出状況、小テスト、平常活動などを総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考					

【工業】

講座名	工業技術基礎 Y	科目名	工業技術基礎	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 12名以内でのTT実習	予定時数	58
履修対象者	ものづくりや工業技術に興味・関心がある者				
目標	機械・電気の基礎を学習、体験することによりものづくりに興味・関心を持つ。				
科目の内容	1 学期	実習を通して機械・電気に関する分野の基礎的な知識と基本的な工業技術を学習する 4月～5月 機械図面(等角投影図)の見方・描き方 工作機械の測定機器の基礎知識について 6月～7月 工具・工作機械・測定機器の基本的な使用法、金属加工の基本技術 安全作業について			
	2 学期	9月～12月 旋盤を使用して、真鍮での課題作品製作実習			
	3 学期	1月 電気計測の基本実習 電流計・電圧計・テスター・オシロスコープなどの使用法・操作法の実習 2月～3月 電子回路の基礎的な組立実習および電気工事			
評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、製作課題・報告書などを総合的に評価する				
使用教科書	工業技術基礎(実教出版)				
使用教材					
諸経費					
備考	1年次に「工業技術基礎X」を履修した者は受講できない。				

講座名	工業実習 A (電気系)	科目名	工業実習 A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 12名以内での実験・実習が中心	予定時数	58
履修対象者	工業の電気について関心がある者 電気に関係する資格取得(特に電気工事士や電気主任技術者)を将来考えている者				
目標	電気工事を学習し、将来第二種電気工事士試験に合格する。				
科目の内容	1 学期	4月～5月	発電、送電、配電について	屋内配線工事の基本 工具の使い方(電工ナイフ、ペンチ、圧着ペンチ)	
		6月～7月	外装被覆	電線の接続 基本となる配線器具(スイッチ、コンセント)への取り付け	
	2 学期	9月	その他、配線器具への取り付け		
		10月～11月	単線図と複線図		
		12月	複数の配線器具を用いた電気工事の配線		
3 学期	1月～3月	第二種電気工事士の候補問題(全13問)の配線実習 【 単線図 → 複線図 】 【 複線図 → 配線 】			
評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、製作課題・報告書などを総合的に評価する				
使用教科書	工業技術基礎 (実教出版)				
使用教材					
諸経費					
備考					

講座名	工業実習 B (機械系)	科目名	工業実習 B	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 12名以内での実験・実習が中心	予定時数	58
履修対象者	金属加工・機械工作・ものづくり等に関心のある者				
目標	旋盤やフライス盤を使って作品を完成させることにより、ものづくりの良さを学ぶ。				
科目の内容	1 学期	4月～5月	機械図面の見方	手描き製図での図面作成練習 安全作業について	
		6月～7月	工具、測定機器、工作機械の使用法	操作練習	
	2 学期	9月～12月	旋盤、フライス盤、ボール盤等を用いて課題作品製作実習	【 旋盤 → 一輪挿し 】 【 フライス盤 → サイコロオブジェ 】	
3 学期	1月～3月	旋盤、レーザー加工機等を用いて課題作品製作実習	【 旋盤 → 印鑑ケース 】 【 レーザー加工機 → my 印鑑 】		
評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、製作課題・報告書などを総合的に評価する				
使用教科書	工業技術基礎 (実教出版)				
使用教材					
諸経費					
備考	作業服、安全靴を使用 (体操着、グランドシューズで代用可)				

講座名	*CAD I	科目名	CAD I	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業 16名以内での実習形式	予定時数	58
履修対象者	特に限定なし				
目標	CADを学習し、実際に作品を造ることによりものづくりに興味・関心を持つ。				
科目の内容	1学期	コンピュータの援用による設計 [Computer Aided Design] 設計製図の基礎を学習する。 □3DCAD[Solid Works]システム 4月 概要、構成 ソフトの基本操作練習 5月～7月 3DCADを用いて基本的な図形作画練習			
	2学期	9月 部品図面、立体物の作図 10月～12月 3Dプリンターを用いて課題の製作			
	3学期	1月 3D図面上での部品組立（アセンブリ）練習 2月～3月 課題作品製作			
評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、製作課題・報告書などを総合的に評価する				
使用教科書	工業技術基礎（実教出版）				
使用教材					
諸経費					
備考					

【商業】

講座名	簿記A	科目名	簿記	単位数	4
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	116
履修対象者	経済・経営学部への進学希望者 経営者や個人事業主になる可能性がある者 高校卒業後の就職希望者 役立つ資格を取りたい者				
目標	日商3級程度の範囲について、簿記の知識・技術を身につける				
科目の内容	1学期	4月 簿記の基礎・仕訳と転記・決算手続 5～7月 取引の記帳方法（現金・預金・商品売買など）			
	2学期	9～11月 取引の記帳方法（商品売買・手形・各種債権債務・固定資産など） 12月 決算整理（収益・費用の見越・繰延など）と決算手続			
	3学期	1～2月 検定試験問題の演習 3月 一連の取引練習			
評価方法	定期考査・夏冬休み明けテスト・授業内の作業および小テスト・宿題の提出・出席状況等を総合的に評価する				
使用教科書	高校簿記 新訂版				
使用教材	日商簿記検定 模擬試験問題集 2023年度版 商業簿記3級 検定簿記ワークブック3級 商業簿記 よくわかる簿記シリーズ 日商簿記3級 合格トレーニング				
諸経費	問題集・検定試験受験料・電卓（各自で購入）で、計7,000円程度				
備考	大学受験での活用を考えている者や検定級を就職活動・入試で活用したい者は、必ず2年次に履修すること。 履修者は全員、2月末に「日商簿記検定3級」を受検しなければならない。 2月が検定試験のため大学一般受験の生徒は試験の時期が重なるので注意が必要。 【注意】 原則、簿記Aを履修していない者は3年次に簿記Bを履修することはできない。				

講座名	経済活動と法	科目名	経済活動と法	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	法学部または経済・経営学部への進学希望者 高校卒業後の就職希望者 その他、法律一般、物の売買や貸借、労働契約などに関する法規に関心がある者				
目標	法についてやや専門的な知識を身につける。				
科目の内容	1 学期	4月 法の意義と役割 5～6月 権利・義務と財産権 7月 契約と意思表示			
	2 学期	9月 売買契約と賃貸借契約 10月 債権の管理と回収 11月 手形と小切手の利用 金融取引 12月 電子記録債権			
	3 学期	1月 会社に関する法 2～3月 企業の責任と法			
評価方法	定期考査・課題の提出・授業内の作業・出席状況などを総合的に評価する				
使用教科書	経済活動と法 新訂版				
使用教材					
諸経費	教科書・補助教材（3,000円程度）				
備考	2年次にビジネス基礎（商業科の入門として設置された科目）を履修しておくことが望ましい				

【国際文化理解】

講座名	*ドイツ語・ドイツ文化	科目名	ドイツ語・ドイツ文化	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	70
履修対象者	ドイツ語やドイツ語を第一言語とする国の文化に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者				
目標	教養の一つとして、ドイツ語やドイツ文化に関する初歩的な知識を身に着ける。				
科目の内容	1 学期	4～5月 基礎単語・基本文型・基礎的文法項目など 5～6月 簡単な会話 7月 地理・観光・歴史、風俗・習慣、芸術・スポーツなどの文化面について、ビデオ・写真や現地資料も使って解説する。			
	2 学期	9～10月 1学期よりも進んだ基礎単語・基本文型・基礎的文法項目など 10～11月 やや進んだ会話 12月 地理・観光・歴史、風俗・習慣、芸術・スポーツなどの文化面について、ビデオ・写真や現地資料も使って解説する。			
	3 学期	1月 より進んだ文法項目（再帰動詞、接続法など） 日常的な会話 2月 簡単な内容の聞き取り・書き取りなど 3月 地理・観光・歴史、風俗・習慣、芸術・スポーツなどの文化面について、ビデオ・写真や現地資料も使って解説する。			
評価方法	定期考査、授業内の諸活動を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材	Deutsch lernen mit System 1				
諸経費					
備考	教養講座				

講座名	*スペイン語・スペイン文化	科目名	スペイン語・スペイン文化	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	70
履修対象者	スペイン語やスペイン語を第一言語とする国の文化に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者				
目標	教養の一つとして、スペイン語やスペイン文化に関する初歩的な知識を身に着ける。				
科目の内容	1 学期	4月 スペイン語の表記と発音と基本挨拶表現 5月 女性名詞・男性名詞、不定冠詞 6～7月 数の表現、 買い物の表現、文化についての紹介			
	2 学期	9月 定冠詞、動詞 <i>querer</i> 10月 時間の表現、複数形 11月 色の表現、体の部分の表現 12月 文化についての紹介			
	3 学期	1月 形容詞 2月 動詞 <i>ser& estar</i> 、所有の表現 動詞 <i>tener</i> 3月 文化についての紹介			
評価方法	定期考査、授業内の諸活動を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材	スペイン語レッスン初級 I				
諸経費					
備考	教養講座				

講座名	*フランス語・フランス文化	科目名	フランス語・フランス文化	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	フランス語やフランス語を第一言語とする国の文化に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者				
目標	教養の一つとして、フランス語やフランス文化に関する初歩的な知識を身につける。				
科目の内容	1 学期	4月 挨拶、自己紹介、文字と発音、数詞 5月 人称代名詞と名詞の女性形・男性形 6月 人や物の紹介、疑問文と否定文、動詞の活用 7月 フランス語圏の地理・歴史、風俗・習慣、文学・芸術・スポーツ・芸能など			
	2 学期	9月 要望や希望の表現 10月 物や行為に対する好みの表現、形容詞 11月 年齢や学年の表現、所有についての表現 12月 フランス語圏の地理・歴史、風俗・習慣、文学・芸術・スポーツ・芸能など			
	3 学期	1～2月 予定や習慣についての表現 3月 フランス語圏の地理・歴史、風俗・習慣、文学・芸術・スポーツ・芸能など			
評価方法	定期考査、授業内の諸活動を総合的に評価する				
使用教科書	Spiral (スピラル) 日本人初心者のためのフランス語教材				
使用教材					
諸経費					
備考	教養講座				

講座名	*中国語・中国文化	科目名	中国語・中国文化	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	70
履修対象者	中国語や中国語を第一言語とする国の文化に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者				
目標	中国語・中国文化に親しみ、中国語によるコミュニケーションの初歩を身につける。				
科目の内容	1 学期	中国語の知識が全く無いものとして、初歩段階の内容から学習を始める。 4月 基本的な挨拶表現、声調と母音・子音 5月 動詞「是」、助詞「的」、連動文、「中国の国旗」 6～7月 助動詞「想」、動詞「有」、「中国の民族」			
	2 学期	9月 動詞「在」、前置詞「往」、「中国の首都」 10月 数のいい方、値段のたずね方、「中国の主要都市」 11～12月 年月日、曜日、年齢のいい方、「中国の世界遺産」			
	3 学期	1月 文末の「了」、「中国の教育」 2～3月 助動詞「会」、「中国の料理」			
評価方法	定期考査、授業内の諸活動を総合的に評価する				
使用教科書					
使用教材	中高版しゃべっていいとも中国語				
諸経費					
備考	教養講座				

講座名	*演劇	科目名	演劇	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	70
履修対象者	演劇や、その他の身体や声を使った表現に関心のある者				
目標	様々な演劇的活動を通じ、豊かな感性と表現力、コミュニケーション能力を身につける。				
科目の内容	1 学期	4月 身体と声を使ったゲーム等を通じ、演劇の基礎となる人間関係を築く 5月 心身解放ワークショップ、声による表現・コミュニケーション・身体表現を学ぶ 6月 シナリオの構造の理解 7月 日常の会話をスケッチして表現する			
	2 学期	9月 スケッチから演劇へと発展させていく 10月 舞台スタッフの役割について学ぶ 11月 各自のスケッチを総合して演劇のシナリオへと発展させていく 12月 舞台作りの知識を深め、シナリオを創作していく			
	3 学期	1月 上演に向けて作品を制作する 2～3月 *上演に向けてのレッスン *上演			
評価方法	年間を通してレポート提出（創作シナリオを含む）や授業態度を評価する。また上演をもって考査に代え、これも評価の対象とする。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	教養講座。教師が一方的に何かを生徒に教えるという授業ではない。授業の中で何かを学ぼうという意欲と表現に対する意欲が必要。また、身体を使う運動性の高い内容も多い。				

講座名	*観光	科目名	観光	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	国内の交通機関や宿泊施設、またはそれらの利用方法や料金体系に関心のある者 将来、旅行関連の進路を検討している者も適しているが、あくまでも教養講座である				
目標	個人旅行を企画できる程度に、旅行に必要なツールの取り方・使い方を身につける。				
科目の内容	1 学期	4～7月 国内交通機関の運賃・料金・サービスと利用方法（概説および鉄道・バス）			
	2 学期	9～10月 旅行プランの企画立案および発表			
		11月 国内交通機関の運賃・料金・サービスと利用方法（航空・その他） 12月 国内宿泊施設の確保・予約方法や標準的な利用ルール			
3 学期	1～2月 旅行プランの企画立案および発表 3月 海外個人旅行のプランニングに必要な基礎知識				
評価方法	定期考査や旅行プランの発表・レポート課題の提出状況・授業内の作業および出席などを総合的に評価する なお、休日に外出をし、それをもとにレポートを書く課題を出題する。部活動などで休日が多忙な者は、関係する大人とよく相談すること。				
使用教科書					
使用教材	JTB時刻表 2023年4月号				
諸経費	補助教材（時刻表）2,000円程度および上記レポートのための旅費（各自の旅程による）				
備考					

講座名	*環境	科目名	環境A	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	58
履修対象者	環境や環境問題（自然環境・社会環境）に興味・関心のある者。将来環境関連の進路を検討している者。実際にさまざまな環境活動を行っている者				
目標	環境問題とそれに対する社会の動きについての知識を、一般常識として身につける。				
科目の内容	1 学期	4～5月 環境問題とはどんな問題なのか（公害問題から環境問題へ）			
		6月 世界の環境問題の現状は（自然環境問題）			
		7月 環境問題についての考えを発表			
2 学期	9月 世界の環境問題の現状は（社会環境問題）				
	10月 つばさの環境活動とは、企業で行っている環境活動とは 11～12月 環境についてのレポート作成・発表				
3 学期	1月 企業における環境活動・環境教育 2～3月 課題についての発表				
評価方法	学期ごとに示す課題をレポートとして提出し、内容について発表を行う。その内容や発表の方法、内容、態度、および授業への出席などを総合的に評価する。 なお、外部の方に授業に来ていただき講義していただくことも予定しており、その際の積極性や受講態度なども評価の対象とする。				
使用教科書					
使用教材					
諸経費					
備考	自分の意見を積極的に発表できる者、積極的に授業に参加し考える者				

【日本の伝統文化】

講座名	*日本の伝統・文化	科目名	日本の伝統・文化	単位数	2
科目の種類	自由選択	授業形態	科目選択者による一斉授業	予定時数	70
履修対象者	日本の伝統文化に興味がある者。				
目標	日本の伝統・文化の理解を深めるとともに、日本人としての誇りを持ち、日本の良さを発信する能力や態度を養う。				
科目の内容	1 学期	華道の稽古 生け花の基本について実習を通して学ぶ。(龍生派) 4～5月 水盤・コンポートを使用した基本花型 6～7月 水盤・コンポートを使用した自由花型			
	2 学期	華道の稽古 生け花の基本について実習を通して学ぶ。(龍生派) 9月 投げ入れを使用した花型、線・面・マスの手法、文化祭発表 茶道の稽古 客の心得、風炉の点前について実習を通して学ぶ。(表千家) 10～12月 割り稽古			
	3 学期	茶道の稽古 客の心得、風炉の点前について実習を通して学ぶ。(表千家) 1～3月 薄茶風炉点前の稽古			
評価方法	毎回の授業の取り組みを評価する。				
使用教科書					
使用教材	龍生派の自由花 入門・初伝 龍生派の自由花 中伝				
諸経費	22,000 円程度 (お茶、お菓子、花、その他道具代) その他				
備考	定員は 15 名までとする。希望者が多い場合は選抜を行う。				